

## 東京2020大会における新型コロナウイルス感染症対策の検討状況 及び事前キャンプ自治体の対応について

国、大会組織委員会、東京都は、緊密な連携のもと、本年9月4日以降、これまでに新型コロナウイルス感染症対策調整会議（以下、「調整会議」）を3回開催し、実効的なコロナ対策の検討を行っており、年内を目途に中間整理がなされる予定である。また、各国の事前キャンプを受け入れる地方自治体（以下、「ホストタウン」）の取組に影響が生じるため、国は9月10日にホストタウンを対象としたオンライン会議を開催し、今後、自治体に受け入れマニュアルの作成を求めることとなった。

### 1 調整会議における検討の進め方

アスリート、大会関係者、そして観客という3つのカテゴリーの順に、行程の場面（入国、輸送、会場等）ごとに、下記の課題について検討する。

- ・ 諸外国の国際競技大会の往来等を踏まえた出入国に係る措置
- ・ 適切な検査等の実施、会場等における徹底した感染対策
- ・ アスリートとの接触の有無、状況等を踏まえた対応
- ・ 医療体制の確保等

### 2 アスリートへの対応の基本的考え方

- アスリートが安全・安心な環境の下、万全のコンディションでプレーするためには、徹底した感染防止対策と練習等の円滑な準備活動の両立が必要
- 競技会場や選手村等、大会期間中の対応だけでなく、出入国管理、検査を含めた健康管理、移動、ホストタウンでの事前キャンプ・事後交流、医療体制の確保など、各場面での感染症対策やトータルでの環境整備・ルールづくりが必要

### 3 東京2020大会におけるアスリート等の出入国に係る措置のあり方（案）

#### （1）出国時

- ・ 出国前（72時間以内）に検査を受検し、「陰性」の検査証明を取得
- ・ 入国前14日間の健康モニタリングの提出を求める等

#### （2）入国時

- ・ 空港において検査を受検（結果判明まで、指定した待機場所に留まる）

#### （3）入国後14日間

- ・ 健康管理（健康状態の記録、接触確認アプリ使用等）
- ・ 行動管理（活動計画書の事前提出及び誓約書の提出、移動手段の制限等）

→入国後14日間の滞在施設待機期間中の活動（練習や大会参加等）を可能とする仕組みを創設

#### 4 東京 2020 大会におけるアスリートを中心とした PCR 検査のあり方（案）

(1) 検討対象

- ・東京 2020 大会に出場する外国人選手等
- ・東京 2020 大会に出場する国内在住の日本人選手等
- ・大会関係者（IOC, IPC, IF 等）
- ・選手との接触が見込まれる者（ホストタウン、選手村担当者等）

(2) 対応案

ア 外国人選手等

入国後、複数回の検査（事前キャンプ期間含む）

イ 選手等との接触者

選手滞在期間中の検査

※選手村・試合前やホストタウンにおける検査に係る実施頻度等の検査のあり方、検査体制や陽性者発生時の医療体制等の確保については、今後検討する。

#### 5 事前キャンプ自治体の対応（案）

○国が定める手引き（10 月中に示される予定）に基づく「受入れマニュアル」の作成

- ・項目：行程、移動ルート・手段、練習、交流、宿泊、食事、検査等

○事前キャンプ期間中の選手等の検査の実施

○感染予防策の徹底

#### 【参考】区内におけるブラジルオリンピックチームの事前キャンプ予定（令和 3 年）

競技等	場所	期間
ビーチバレーボール（男女）	大森東水辺スポーツ広場 ビーチバレー場	7月上旬～8月上旬
バレーボール（男子）	大田区総合体育館	7月上旬～7月中旬
ハンドボール（男女）	大森スポーツセンター	7月上旬～8月上旬
食事・宿泊拠点	大田区青少年交流センター	7月上旬～8月上旬
入国選手受入拠点	大田区総合体育館	7月上旬～8月上旬

※準備・撤去等期間は除く